
 声・担当者に聞く

職場に同じ仕事をする人がいない孤独を感じ始めた頃、病図協の研修会に参加させていただき、私だけでなく、みんなそれぞれの図書室でユーザーの期待にこたえられるようがんばっていることを知り、自分のすべき仕事を学んだように思いました。

研修会に参加することは、私にとって、その内容のみならず、日頃、電話だけのつながりだった人達との触れ合いを作る大きなメリットもありました。同じ仕事をしている仲間と接することで大いに感化されることが多々あり、互いの業務についての情報交換や、アドバイスをさせていただいたりする接点の輪を広げていってくれるものでした。

1988年度には何もわからないまま幹事という大役を務めさせていただきました。その時、幹事会に出席し、私には難しい高度な話し合いが行われているのを聞くにつけ、こういった諸先輩方の意見が反映されて、病図協の一步一步の発展があり、今日があるのだと思いました。

設立20周年を迎え、会員数も増加しつづけています。これからもたくさんのお会いを大切にそれぞれの病院図書室が協力していかなくてはならないと思います。

この会をここまで育ててこられた役員各位のご努力に感謝するとともに、全国の病院図書室の充実、発展のため、今後力発揮していただきますことを願っております。

病図協設立20周年、おめでとうございます。まだ入会3年目の私にとっては気の遠くなるような期間ですし、先輩諸氏の普段のご努力は如何ばかりでしたでしょうか。

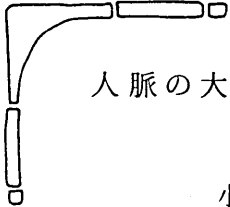
思い起こせば、5年前に図書室を開設し、その特殊性に戸惑っている時に、第一回名古屋研修会のお誘いを受け、小規模図書室でもどんなようにも向上発展させていけることに驚かされ、担当者としての責任や努力を認識させられました。

それ以後、できる範囲内で参加して、図書室業務について少しずつ勉強させていただき、病図協のおかげで、遅々たる歩みではありますが、当図書室も少しずつ形を整えてきたような気がします。

特に昨年4月からの相互貸借については会員の皆様に本当にお世話になり、助けられています。最近では検索に始まり、文献依頼に終わるといった日々が増えつつあり、もし入会していなかったらどうなっていたことでしょうか。悲しいかな、設立後、日も浅い図書室故、製本雑誌の所蔵も少なく、依頼件数が必然的に多くなり、受付をあまり供給できないというアンバランスな状態になっており、本当に申し訳なく思っております。

諸処の研修会などに参加し、同じ立場の人達と多少なりとも知り合いになり、不明な点を教えてもらったり、色々な悩みを相談したり、文献依頼をお願いしたり、人脈の大切さを痛感している今日この頃です。

まだまだ皆様のお力をお借りする一方の未熟な私ですが、今後もより良い図書室サービスを提供するために何をすべきか勉強させていただきたいと願っております。



人脈の大切さ

小牧市民病院図書室
足立 郁子

